



# クラ——西太平洋の遠洋航海者たち 女の島 トロブリアンド

TUFS Cinemaとは……

東京外国語大学TUFS Cinemaは、映画を通じ、世界の諸地域における社会・歴史・文化の理解を深めることを目的としています。

パプアニューギニア島嶼部にあるトロブリアンド諸島は、民族学者マリノフスキーによるフィールドワークと民族誌により一躍有名になりました。今回のプログラムは文化人類学を越えて思想的に大きな影響を与えたクラ交易及びトロブリアンド島社会の女性の生活に焦点を当てた2作です。



©市岡康子

上映日時 2024年

# 5月12日

13:30上映開始 (開場13:10、終了予定17:00) 【日】

場所 **東京外国語大学**

アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール  
(東京都府中市朝日町3-11-1、西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分)

映画①『クラ——西太平洋の遠洋航海者たち』  
本編上映:66分

映画②『女の島 トロブリアンド』  
本編上映:50分

上映後解説/トーク:

市岡 康子 (本作ディレクター)

栗田 博之 (東京外国語大学名誉教授)

司会 山内 由理子 (東京外国語大学  
大学院総合国際学研究院 准教授)

主催 東京外国語大学 TUFS Cinema

協力 日本オセアニア学会

東京外国語大学多言語多文化共生センター

入場無料  
事前登録制 ▶▶  
(先着500名)



<https://sanda.tufs.ac.jp/event/tc240512form/>

※事前登録がなくてもご来場いただくことは可能ですが、会場入口で参加登録をしていただきますので、事前にご登録いただくとスムーズにご入場いただけます。  
定員を超える場合は、事前登録を済ませた方を優先させていただきます。

[お問合せ]  
東京外国語大学 広報・社会連携課  
(TUFS Cinema担当)

TEL **042-330-5441**  
(平日9:00-17:00)

詳細は TUFS Cinema ウェブサイトにて  
<https://www.tufs.ac.jp/tufscinema/>



上映日

2024年5月12日(日) 13:30上映開始(13:10開場、17:00終了予定)

## オセアニア映画・ドキュメンタリー 2 作品同時上映

### クラ——西太平洋の遠洋航海者たち

プロデューサー：牛山純一 ディレクター：市岡康子 撮影：影山雅英・西山東男  
編集：池田龍三 音響：森本高雄・木村哲人 作曲：佐藤勝 ナレーター：久米明  
製作：日本テレビ・映像記録  
1971年／日本／66分／日本語



**あらすじ**  
クラ航海の出発の朝、シナケタ村の海岸に9隻のカヌーが押し出される。トコヴァタリヤはカヌーに「空飛ぶ魔女からカヌーを見えなくする呪術」を施す。南に向かう船団は途中荒れた海も航行するが、この時も含め彼は遠征中9種の呪術をかけた。8日目にボワヨワ半島につき、ドレスアップして交換相手の村に乗り込むが、受け取るはずのバギはまだ到着していなかった。まだ三つ先の島にとどまっていたのだ。待つこと50日、やっとパートナーを説得してバギを手に入れる交渉が始まる。

### 女の島 トロブリアンド



プロデューサー：牛山純一 ディレクター：市岡康子 撮影：河内豊英・宮本征治  
編集：池田龍三 音響：森拓治・木村哲人 ナレーター：久米明 製作：映像記録  
1976年／日本／50分／日本語

**あらすじ**  
7月は贈与相手に芋を運ぶ季節だ。高位の首長に芋を贈る日、村中の若い男女が伝統衣装をまとい、少女は芋を頭にのせ、少年は籠を担いで運ぶ。首長の村に着くと芋を円錐形に積み上げ、少年少女はモエキを歌い踊り、訪問先の若者たちを誘う。この季節はムワサワ(幸せ)と呼ばれる無礼講の時期で、特に未婚の男女は性的に自由にふるまえる。一方、母方のオジから芋を受け取っていた女はオジの死から5か月余り、バナナの葉からカスタムマネー・ドバとスカートを作り、終結の儀礼に臨む。

#### 本作について

『クラ——西太平洋の遠洋航海者たち』は、マリノフスキーの著作の中でもっとも有名な「西太平洋の遠洋航海者」に触発され、出版後49年目の1971年に、現実に行われたクラ航海を映像化したものである。クラはニューギニア本島の東海上に散らばるマッサム地域の島々の間で行われる儀礼的な交換で、対象は赤い貝の首飾りバギと白い貝の腕輪ムワリである。バギとムワリは島々の間を反対方向に回ってゆく。個人的に所有されることのない二つの品は、人々の手から手へ渡ってゆくことに意義があると思われた。本作ではトロブリアンド諸島のシナケタ村が9隻のカヌーからなる船団を組み、クラの相手の住むファーガソン島ボワヨワ半島へ向かう遠征に同行した。長老トコヴァタリヤはクラの呪術を行い、生涯にわたるクラの思い出を興味豊かに語る。当時としては異例の同時録音の多用により、クラにかかる島人の情念が描き出されている。1972年ベニス国際民族誌フィルムフェスティバル、ファイナリストに選出された。

トロブリアンド諸島は母系制の島として名高い。「クラ」は男性だけが行う遠征だが、『女の島 トロブリアンド』は母系の贈与関係のシステムと女性の日常の暮らしに焦点をあてている。島の主要作物はヤム芋だが、耕作した男の所有にはならない。母系のラインを通じて姉妹、姪などの配偶者に贈り、自分は妻の兄弟やオジからヤムを受け取るという贈与関係で結ばれている。贈る相手が首長であれば、村を挙げて芋運び(ゴゲピラ)を挙げる。受け取り手の女性は、芋を贈ってくれた男が死ぬと、一定期間喪に服し、その後喪明けの式リサラダブを開かなくてはならない。母系でつながった一組の男女の贈与関係の終結である。(市岡康子)

#### 上映後解説

市岡 康子 (本作制作ディレクター)  
栗田 博之 (東京外国語大学名誉教授)

#### 問い合わせ

東京外国語大学 広報・社会連携課 (TUFs Cinema担当)  
TEL 042-330-5441 (平日9:00~17:00)  
Email tufscinema@tufs.ac.jp  
Facebook @tufscinema X(Twitter) @tufscinema

入場無料／事前登録制(先着500名)

<https://sanda.tufs.ac.jp/event/tc240512form/>



会場 東京外国語大学 アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール  
交通アクセス (東京都府中市朝日町3-11-1)



- ◆JR中央線「武蔵境」駅のりかえ 西武多摩川線「多摩」駅下車 徒歩5分(JR新宿駅から約40分)
- ◆京王電鉄「飛田給」駅北口より多摩駅行き京王バスにて約10分「東京外国語大学前」下車